

JLSR ニュースレター

ドイツと私

三浦 優子

私とドイツとのつながりは2000年3月に始まりました。夫のドイツ駐在に伴い突然家族でドイツのデュッセルドルフに暮らすことになったのです。そしてなんと10年も暮らすことに。その後帰国してから2024年の現在にいたるまで毎年2回はドイツを訪れ、年に約2か月ほど滞在する生活が続いています。長いドイツ暮らしの中で数えきれないほどたくさんの思い出がありますが、ここでそのなかのいくつか心に残るエピソードをご紹介します。思います。

まずは、ショッキングな出来事からです。渡独して半年後に言葉もわからない生活の中でストレスがたまっていたせいかリンパ節炎になってしまいました。高熱とどこの腫れがひどく急遽入院することに。まだドイツ語もおぼつかない状況での入院で、車いすにのせられた自分の足が不安と恐怖からきざみに震えていました。その震える足を手で一生懸命に抑えようとしていたのを今でも鮮明に覚えています。病院では英語を解さないドイツ人のおばあちゃんと同室になり、看護師さんたちもあまり英語がわからず、唯一意思疎通ができるのは担当医師だけでした。早く先生が来てほしい、そんな思いで1週間病院で過ごしました。それでも不思議なもので、腹をくり観念すると大きな不安や恐怖心はなくなっていきました。生活の中で意思の疎通が全くできないという状況は生まれて初めてで壮絶なものがありました。今になって思えばとても貴重な経験です。

次は楽しいエピソードです。娘が現地の幼稚園に入園することになったのですが、その幼稚園は親参加型で毎週木曜の夜2時間ほど親同士の集まりがあるのです。まだ渡独したばかりで全くドイツ語が分からない私にとっては、何を話しているのかさっぱりわからずでしたが、何しろ毎回おいしいチーズとワインがでるのです。わからないドイツ語はまるでバックミュージックのように聞き、私はひたすらおいしいワインを飲みながらチーズばかり食べていました。そのせいか今でもワインとチーズが大好きです。

また、こんな嬉しいエピソードもあります。娘がドイツ現地校に入学することになり、入学式後、教室に保護者たちが集まり自己紹介をする時間がありました。当時の私は、ドイツに来て1年足らずでドイツ語も語学学校に行き始めたものの、まだ現在形しか習っていない状況です。過去形も未来形も使うことができず、「私も娘と一緒にドイツ語の勉強を頑張りたいと思います」という内容のドイツ語をたどたどしいながらも、とびっきりの笑顔で発信しました。すると突然、教室内の親たちから大きな拍手が。あとで英語のわかる保護者の一人が、「ほとんどの日本人家族は日本人学校に子どもを入学させるのに、あなたたちがドイツの現地校を選んだのはとても勇気のあることで素晴らしいです」とほめたたえてくれました。暖かい大きな拍手。涙がでそうなくらいうれしく勇気づけられたのを覚えています。

最後は我が家の愛犬ブラッキーにかかわるエピソードです。ブラッキーは、雄のボーダーコリーでドイツのマルブルクという町で生まれ生後 6 週間で我が家にやってきました。土を掘り起こすことが大好きで、散歩中にふと目を離したすきに凄い勢いで散歩途中の家の庭に走りこみ土堀をしてしまうのです。(ドイツでは公園や広い敷地ではリードなしで散歩します)何度呼んでも出てきません。鼻を土で真っ黒にしたブラッキーをやっと捕まえるとそこには大きな穴が！そのたびに謝罪し、ある時には掘り起こしてしまった芝を買ってお返したことも。また、ドイツでは、家族が旅行に行くときに飼い犬をブリーダーさんのところに預けることがよくあります。ブラッキーも私たちが長い旅行中にブリーダーさんに預けました。そこには、ブラッキーの親や兄弟、そしてたくさん仲間たちがいてブラッキーにとってはいわゆる里帰りのようなものです。ある日 2 週間ほどの旅を終えブリーダーさんのところにブラッキーを迎えに行くとブラッキーは、「ブービー」とかいう違う名前と呼ばれていました。「ブービー」と呼ばれてもおかまいなしに元気に仲間たちとフィールドを走り回っているブラッキーを見て、思わず笑ってしまいました。

ほかにもドイツならではの楽しい、愉快的思い出がたくさんあります。そしてそんな思い出を共有する友もできました。私の人生の中で大きな意味を持つドイツ、これからもずっとつながっていきたいです。

(みうら・ゆうこ 中央大学講師)

会員エッセイ

ライフストーリー研究との出会い

東川由薫

私がライフストーリー研究会へ入会させて頂ききっかけとなった出来事は、約10年前に沖縄県のある離島で出会った高齢者女性との出会いまで遡ります。この島での基幹産業はサトウキビやジャガイモ、カボチャ栽培であり、そして、その畑がまるで北海道のように島一面に広がる、のどかな所でした。しかしながら同時に全人口は約500名、高齢化率は約20%、年間出生数は1名前後と限界集落化や高齢化も心配される所でもありました。さらに、この島は沖縄本島から200Km以上離れており、1日1回やって来る(か、どうかは霧や台風次第で分からない)50人乗りのプロペラ機と1週間に1回やって来る(か、どうかは霧や台風次第で分からない)船便が本島と島を繋ぐ交通手段でした。当然、天候不順で飛行機と船が来島できない時は、お天道様の気分次第で手紙や荷物・食べ物に至るまで届く日が来るのを待つしかなく、個人商店やスーパーの食品売りのガランとした光景に驚き、また空しく見つめていたことが忘れられません。

ところが島の人たちは、巧みにユイメール(沖縄言葉で「助け合い」を意味します)を駆使し、畑で採れた

野菜や果物、本島から買って来たお土産等を物々交換していました。そして私も有難いことに、その対象として下さっていました。その様な状況の中、いつも家の庭で2匹のヤギがのどかに草を食んでいる光景が印象的な1人暮らしの高齢者女性のご自宅を、いつも通りに訪問で伺った、とその時、「島で死にたい。もう生きて友達や家族に会えない、生まれ故郷のこの島で死にたい！！」と涙ながらに訴えられたことがありました。何があったのだろうかとお話伺うと、この島では老健施設が無く、杖歩行であった彼女に対し、別居して村内に住んでいる息子さんから飛行機のタラップが上がれなくなる前に沖縄本島の施設に入ってほしいと言われてしまい辛い思いをされていたようでした。早速、役場の高齢者福祉担当の方へ、このお話を伝えたと、島内にサテライト型の簡易訪問看護ステーションの構想があるとのことでした。それはいつできるのだろうか・・・私に出来ることは何だろうか・・・と悶々としていた矢先、今度は私の実家で介護問題が勃発してしまい、結局、私はこの問題のその後を知る事もなく、何か未消化のような状態のまま、実家のある岡山県へ戻ることになってしまいました。

しかし、沖縄でのこの出来事は形を変え、もう一度、再来する様な出来事が起こりました。それは岡山へ戻ってから数年後、在日ブラジル人高齢者の方のアパートへ伺った時のことです。彼や彼の友人の家族のお話を伺った後、私が「これまでの日本やブラジルでの経験を伺ってもいいですか？」と尋ねると突然、涙な

岡山県の在日ブラジル人人口の推移

1. 岡山県内に在住している在日ブラジル人人口の経年変化 各年 6 月 30 日現在¹⁾

※但し 2008 年から 2012 年は 12 月 31 日現在の人数

(人)

| 2008 H20 | 2009 H21 | 2010 H22 | 2011 H23 | 2012 H24 | 2013 H25 | 2014 H26 | 2015 H27 | 2016 H28 | 2017 H29 | 2018 H30 | 2019 H31/R1 | 2020 R2 | 2021 R3 | 2022 R4 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|------------|------------|------------|
| 1,845 | 1,347 | 1,490 | 1,183 | 959 | 893 | 871 | 910 | 913 | 953 | 940 | 1,066 | 1,270 | 1,253 | 1,073 |

2. 岡山県に在住している在日ブラジル人高齢者人口の経年変化 各年 6 月 30 日現在¹⁾

※但し 2008 年から 2012 年は 12 月 31 日現在の人数

(人)

| 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 24 | 23 | 20 | 25 | 21 | 25 | 28 | 33 | 49 | 55 | 65 | 84 | 103 | 108 | 111 |

3. 岡山県内の市区町村別 在日ブラジル人人口 上位1～3位 2022 年 1 月 1 日現在²⁾

1 位→岡山市:466 名 2 位→総社市:251 名 3 位→倉敷市:162 名

4. 県内上位市区町村における在日ブラジル人の経年別人口 各年 12 月 31 日現在³⁾

岡山市

(人)

| 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| - | - | - | - | 249 | 219 | 286 | 282 | 288 | 278 | 317 | 424 | 517 | 466 |

倉敷市

(人)

| 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| - | - | - | - | 170 | 150 | 137 | 131 | 137 | 129 | 134 | 184 | 145 | 162 |

総社市

(人)

| 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| - | - | - | - | 300 | 284 | 250 | 242 | 272 | 251 | 239 | 265 | 292 | 251 |

¹⁾ 出入国在留管理庁ホームページ「在留外国人統計 都道府県別 在留資格 在留外国人 (その5 ブラジル)」
【在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表】 | 出入国在留管理庁 (moj.go.jp) (2023 年 3 月 31 日閲覧)

²⁾ 岡山県ホームページ 岡山県内各市町村の外国人住民人口の状況
外国人人口 (city.soja.okayama.jp)、(2023 年 3 月 21 日閲覧)

³⁾ 出入国在留管理庁ホームページ「在留外国人統計 市区町村別 国籍・地域別 在留外国人」
【在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表】 | 出入国在留管理庁 (moj.go.jp) (2023 年 3 月 31 日閲覧)

がらに「今まで誰もそんなことを聞いてくれる人はいなかった！！」と訴えられました。同じ様に聞いていた家族や友人も涙ぐまれていました。この時、私はそれ程考えず、気軽に伺ったつもりだったのですが、在日ブラジル人の方にとっては、とても気楽に話せない状況であることが伺えました。そして沖縄の離島での高齢者女性が思い出されました。恐らく古里の風景や、そこでの思い出、また、その思い出の中の人々等々・・・もう生きて会うことが叶わない、島で出会った、あの女性と同じ思いからだろうと思うのですが、でも日本人の高齢者の方とは生まれも育ちも、そして生きてきた経験も異なります。この時から、本当に彼らの望む、日本における生き方を支援するためには彼らのこれまでの生きてきた経験を伺う必要があると考えました。そして本格的に在日ブラジル人高齢者の方へインタビューを試みたいと考えるようになりました。

しかし、岡山県では対象者が少なく、様々な所で彼らを対象とした質的研究は難しいという指摘を頂きまし

た。では、どうすれば彼らのこの声にならない声を届けることができるのだろうかと思々としていた時に、二階堂裕子先生から桜井厚先生が執筆された『ライフストーリー研究に何ができるのか—対話的構築主義による批判的継承—』と『自己語りの社会学』の本をご紹介頂き、更に研究生の方と一緒に桜井先生の著書を基に勉強させて頂いたことでライフストーリー研究を試みたいと考える様になりました。特に今までのインタビュー調査における、出来るだけ多くの対象者から集めた語りの重複を抽出し分析を行い、調査者の存在は意識しないという手法よりも、対話的構築主義アプローチという対象者と調査者間の対話から双方の経験や表現、捉え方、物の見方等を「構え」として多面・複合的に対象者の生きている世界を知ろうとする手法であることを知り、私自身の研究手法はこれだ、と何故か納得してしまいました。この手法では私の東ティモールでボランティア活動をした際に現地の人とポルトガル語が話せず、会話が出来ず呆れられたこと、沖縄で

ナイチャー(よそ者)と言われ、馴染めないと感じたことがあったこと、年下の人にパートのくせにと言われ悔しい思いをしたこと等、このような経験も、この研究では必要とされるのではないかと考えました。(しかし実際は、東ティモールや沖縄では家族のように迎えて下さり助けて頂いた事の方が多く、上記の様な方ばかりではありませんでした。改めて失礼な表現となりましたこととお詫び致します。)

以上、このことからより強く、在日ブラジル人高齢者の方へ引き付けられるようになりました。この彼らの思いや経験を伝えたいという強い思いと共に、私の住む岡山県の特に総社市で在日ブラジル人の方の定住化が進んでいるのは何故なのかということも気になり、研究で明らかにしてみたいと考えるようになりました・・・

と、長々とライフストーリー研究に出会うまでの経緯について書いてしまったのですが、研究についてはまだまだ勉強不足の部分が多く、まだまだ稚拙な者ではございますが、今後共どうぞ御教示下さいます様、宜しくお願い致します。

第 3 楽章：ゆっくりとコンサマトリーな生き方へシフト

服部 恵

1984年から2024年3月まで40年間、新聞社の事業局で事業の企画や運営に携わった。文化、社会、スポーツのイベントの主催や後援を行う部署は、新聞社の編集部門とは別の顔を持つ。社の看板事業である大相撲、マラソン、ゴッホやルノワールの美術展そして地域の産業振興に関する啓発事業など多くは行政や他メディアと共同で開催する。

入社した頃は、今と違って大らかで牧歌的な風土が社内にあった。新聞社といえども営利企業であるから利益を追求しなければならない。しかしながら、地域の新聞購読者のため、イベントを通して地域が活性化するような事業をとの気概があったように思う。もちろんイベントには、大きなお金が動く。緻密な予算を立て、そのイベントの集客を見込めるように日々広報宣伝や入場券の販売に注力することになる。しかし、なかには失敗してコケる事業もある。それが許されない雰囲気を感じるようになった。私の肌感覚からいうと小泉政権あたりで2000年前後、今から20年くらい前と記憶

する。日本が郵政民営化や道路公団民営化に始まり、福祉の歳出も削減された時期だった。

そんな時代を経て、私は定年前に新聞社の組織の社福法人に2年半出向した。そこで、専門職と同じ目線で話せるようにと社会福祉士を取得した。その延長上で2021年コロナ禍に社会人として大学院に入院し、初めて研究に取り組み始めた。2023年3月に修士課程を修了したところである。

長期間、スピード、効率や費用対効果が染みついたわが身にとって研究はじっくりと思考を巡らし、自分と対話する時間で慣れない日々であった。ようやく、脳が研究脳にシフトしつつあり、また論文の型や作法が少しずつではあるがわかってきた。

今、LS研究法で投稿論文を書こうとしている。研究協力者に向き合う時、事業のお家芸ともいえる、人に会って、丁寧に名刺を差し出し、気の利いた言葉を交わしながら笑顔や感動を作り上げる経験が生きていると感じる。

第 18 回ライフストーリー調査研究講習会の報告

2023年11月26日(日)に第18回ライフストーリー調査研究講習会を開催しました。講師として、矢吹康夫氏(中京大学教養教育研究院 講師)にご来所頂き、「ライフストーリー・インタビューをやる」というテーマで講義して頂きました。

以下に、参加者の感想(抜粋)を掲載します。

○質的研究について、方法や理論の説明だけではなく、矢吹先生のご経験をもとに話されていたので、より具体的に想像をすることができました。

○初心者研修を発展させた内容だったのでとても分かりやすかったです。先行研究の重要性を実感することができました。また、ライフストーリー研究でインタビューを実施する中で副次的効果としてカタルシス効果を感じているので、「自己正当化のための動機のボキャブラリー」で「なぜ、そのようなことをしたのか?」と問いかけることによる動機の発現は大きな学びになりました。

○具体的な例を交えて講義いただき、実際のヒアリングを想像・想定しながら学ぶことができ良かったです。

また、話し手の思いを言語化することの意義を再確認できました。

○今回の講習会では、ライフストーリー・インタビューの手法に関する説明が大変わかりやすかったです。まず、オーバーラポール(過度の共感)の観点については、インタビューにおける重要な盲点で、私の理解を深めることができました。

○トランスクリプトの項目が、事例がしっかりと記載されていてイメージが湧きやすかったです。

また研究成果公表に際しての留意点もこれから気を付けなければならないと思わせる内容でした。

○今回は思い切って研究所に行って、直接講義が聞けて良かったです。皆さんが温かい雰囲気、私も緊張せず、研修に参加できました。

○倫理審査委員会の承認が得られ、まさにこれからインタビューを始めるところでしたので、今回の講習会でインタビューの準備から一連の流れを学ぶことができ、大変有難かったです。

○トランスクリプトをどのように文中に挿入するかなど、様々な例をご提示いただいたのも大変参考になりました。

○研修最後、フロアーからの質問に対する先生のご回答、「インタビューデータをそのままいくつかピックアップしながら、分析する。(論文を書きながら考えていく)」という言葉に、当事者の方の言葉からライフストーリーそのものを組み立ててく姿勢を学ぶことができました。



『語りの地平』第8号 発刊と合評会のお知らせ

『語りの地平—ライフストーリー研究』第8号が発刊されました！！

2月下旬～3月上旬に合評会の開催(Zoom とオンラインのハイブリッド)を予定しています。申し込み方法等は、メールでお知らせをいたしますので、ぜひご参加ください。



『語りの地平』9号の投稿を ご準備ください!!

- ・2023年度会費納入済の会員の方が投稿できます。
- ・4月に投稿エントリーを受け付けますので、論文タイトル(仮題でよい)、投稿ジャンル(論文、研究ノート、書評、調査報告など、希望ジャンルの相談も受け付けます)を明記して申し込んでください(エントリー締め切り4月末日予定)
- ・論文、研究ノートについては査読があります。

ライフストーリー研究会 開催報告

LS研12月例会

- ・日時:2023年12月17日(日)13:30～16:30
- ・報告者:時野加奈子さん(名古屋大学大学院生)

・報告タイトル:ライフストーリーを通じて見るベトナム人元技能実習生日本語教師の教育観と実践—ハノイにて9年以上の教授経験を持つ4名の教師の語りから

・概要:ベトナム人元技能実習生の中には、帰国後に日本語教師になる者がいるとの報告がある。これらの教師は、自身の日本での経験を活かし、技能実習生に日本語を教える教育機関において、中核的な存在を担うケースも見受けられる。しかし、日本での経験や

教育機関での勤務経験が彼らの教育観や実践に与える影響については、詳細な調査が少ない。本報告では、ベトナムの日本語教育機関で9年以上勤務し、技能実習生に日本語を教えてきた4名の元技能実習生教師のライフストーリーを分析し、彼らがどのように教育観を形成し、教育実践を行っているかを考察する。

★報告者は随時、募集中です。メールにてお問い合わせください。『語りの地平』に投稿希望の方は、ぜひとも、報告をお願いいたします。

特別研究会第2回の開催 「ライフストーリー研究における調査者としての私」

日時:1月21日(日)

司会 山田富秋(松山大学)

報告

①佐藤正則 (JALAS 横浜・山野美容芸術短期大学):日本語教師でもあり研究者でもある私のポジショナリティ

②山本佳世乃 (岩手医科大学):ライフストーリーについて—一人の物語の編集から解放へ

③西倉実季 (東京理科大学):ライフストーリー研究者の役割—マジョリティがマイノリティの語りを聞く場合

ブレイクアウトセッション/全体討議

*参加受付は締め切りました。

第19回 ライフストーリー 調査研究講習会

・3月24日(日)を予定しています。

・詳細が決まりましたら、メーリングリストでお知らせをいたしますので、ホームページからお申込みください。

受け入れ論文、図書、報告書

2023年10月15日～2024年1月14日

(下線は会員)

論文、報告書、著書などをお送りください

- ・岩佐奈々子・新井かおり, 2023「アイヌブリと研究—アイヌの人々の未来のWELL-Beingに向けた“私たちの方法”を求めて」『日本オーラル・ヒストリー研究』第19号:167-180.
- ・篠原真史, 2022「新制中学発足時における校友会が果たした役割—甲府市立南中学校校友会誌から読み解く教員・生徒の視点」『佛教大学大学院紀要社会学研究科篇』第50号.
- ・日本家族社会学会編, 2023『家族社会学研究』vol.35, no.2(なお、本号には「特集 森岡家族社会学の総括と現代への示唆」が生まれ、藤崎宏子, 2023「森岡家族社会学の軌跡と到達点—未完の家族変動論」などが収録されている)
- ・藤崎宏子, 2019『中高年期を生きる—ライフコースの危機的移行に関する質的研究』(2006-2008年度科研費調査のインタビューデータを再整理したもの)
- ・社会学教育研究会(代表, 藤崎宏子)編, 2006『社会学者は誰に何を教えどんな人を造っていくのか』I, II, 社会学教育研究会.
- ・大島岳, 2023『HIVとともに生きる—傷つきとレジエンスのライフヒストリー研究』青弓社.
- ・今井昭彦, 2023『関東・東北戊辰戦役と国事殉難戦没者—上州・野州・白河・二本松・会津などの事例から』御茶の水書房
- ・桜井厚, 2023「中野卓—社会学的調査に生きた人間を求めて」奥村隆編『戦後日本の社会意識論—ある社会学的想像力の系譜』有斐閣.
- ・小林多寿子, 2023「森岡清美—ライフの社会学へ」奥村隆編, 同上.
- ・佐藤正則・三代純平, 2023「複言語・複文化話者としてサハリン残留日本人—複言語・複文化における仲介という観点から」『言語政策』19.
- ・吉村さやか, 2023「〈見た目問題〉と生きる—ライフコースの視点から」『社会福祉研究』第147号.

- ・西倉実季, 2023「ルッキズム研究の地平ー外見に基づく差別について」同上誌.
- ・上田喜三郎編著, 2023『ハワイ移民漁師の生活史』御茶の水書房.
- ・佐藤泉, 2023『死政治の精神史——「聞き書き」と抵抗の文学』青土社.
- ・川又俊則・郭育仁編, 『次世代創造に挑む宗教青年——地域振興と信仰継承をめぐって』ナカニシヤ出版.

新入会員(2023年10月以降、順不同)

下地 紀靖(名桜大学)
烏 英嘎(中央大学大学院生)

事務局から

すずろごと

○3ヶ月前に入職した新人、といっても彼は30歳。挨拶はするが、話しかけると椅子ごと後ろへ下がっていき、目だけで相づちをうつ。私はこれで対人援助の仕事が続けられるのかと少々いぶかしんでいた。あるとき、ロールプレイ研修をやってみたら、対応に困ると彼の身体が動き両手がひろひろして、表情が豊かである。自分の弱さをさらけ出せたことで、わからない自分自身を見つめようとしている。自分を表すことで、現場はワンチームになっていくのではないか。そんなことを彼から教えられた。(大谷)

○毎年のことながら、同僚たちは大学入学共通テストの準備にバタバタしている。被災地の受験生をはじめ、毎日頑張ってきた受験生全員が全力を出しきれますように。(土田)

○高校生の息子から国語の質問を受けました。問題集の解答に納得がいかないのです。戦地での笑いに関する文章でしたが「現状を受け入れて笑う」と「現状を受け入れられず笑う」ことの違いを吟味し終えたのは午前3時でした。途中、私の精神科仕事の話も交えました。最後に彼は「はっきりしない曖昧な世界でよく仕事が続けられるね」と言って立ち去りました。

はっきりしない曖昧な母は「大きくなったなー」としみじみ思いました。(HY)

○正月早々の能登半島地震、大きい地震には違いないとは感じたものの、時間と共にその被害の甚大さに衝撃を受けた。実家のあるところは能登への入口で、親戚に連絡をしたところ、被害は能登半島ほどではないようだ。この数年、九学会連合能登調査や森岡清美先生の青年期の奥能登調査のことを調べるために何度か輪島市から珠洲市にかけての集落を訪ね歩いたので、海岸線をどんな道が走りどんな町並みがあるのかもリアルに脳裏に浮かぶ。TVで大きな被害の一端を見るにつけ、そうした能登ならではの美しい海岸線や山里の集落がはたしてどうなったのか、心配でしかたがない。気を取り直して、できることは何かと考えたが、いまのところわずかな寄付ぐらいしか思いつかない。父母の墓石も崩れているだろうから、すこし落ち着いたら訪ねることにしよう。(SA)

事務局からのお願い

住所変更手続きのお願い

お引越し等で住所が変わられた際には、ライフストーリー研究所事務局まで、住所変更のご連絡をお願いいたします。

年会費の納入についてのお願い

研究所は皆さまの会費で運営をしております。年会費を未納の方は、お振込みをよろしくお願いいいたします。前年度会費未納の場合は、研究誌は発送されません。2年間未納の場合、自動的に退会となります。ご注意ください。

入退会のご案内

入会は、HPの「入会募集中」欄から入会申込用紙を送ってください。退会は、以下のメールに直接ご連絡ください。

E-mail: jlsr_info@lifestory.or.jp

(社) 日本ライフストーリー研究所

〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 1176-489

E-mail jlsr_info@lifestory.or.jp HP: <http://lifestory.or.jp>

